

私は、2014年度の商学部在外研究の機会を得ました。研修地はアメリカ・テネシー州メンフィス市のメンフィス大学(The University of Memphis)です。メンフィス大学は、1976年に本学とお互い最初の海外姉妹校としての提携協定を結んでおり、現在は、両校交流の一環として隔年ごとにメンフィス大学で本学の両学部学生を対象とした夏期語学研修プログラムが実施されておりますのでご存知の方も多いのではないでしょうか。

私は、そのKemmons Wilson School of Hospitality and Resort Managementで研究することになりました。ケモンズ・ウィルソンとは、メンフィス出身のホリデー・インの創業者ケモンズ・ウィルソン氏のことで、彼は2001年に大学内に彼のホテルチェーンの一つとしてHoliday Inn University of Memphisを建設しメンフィス大学に寄付しました。このホテルの1階には、1学部としてのすべての設備、すなわち教室、学生ホール、教員の研究室、会議室等が20歩以内に散らばるといって極めてコンパクトな大学が収まっております。実業のホテルと大学が同時に存在するというユニークな場です。

私の研究分野は、経済学および経営学ですが、特に最近の研究課題としているのは、「長寿企業の経営管理」で特にホテル・旅館にその研究対象を絞っておりますから、当学部のホスピタリティ産

業あるいはリゾート産業に対する経営研究は、私にとって極めて適切で、その目的に当を得たところでした。日本でのこの分野の研究成果をアメリカの経営管理論に投影してみることは大きなスリルを感じたものです。

当大学の研究体制は、いかにもアメリカ的といえるものでした。たとえば研究上の参考文献・資料等は、そのほとんどがコンピュータのウィンドウの中で対応することができます。それは、ほとんど図書館に足を運ぶ必要がないことを意味します。このようなことは徹底していて、極端なことを言えば、日々の研究は椅子に座ったままですべてが完了する、といった具合です。

朝から晩までとにかくパソコンに釘付け状態が続きました。それは教員も職員もまた学生も同じで、だからこそなのでしょう。昼食時の会話、教員同士の議論、来校者との情報交換、授業、研修、学生との会話、そして世間話までもが極めて重要になってきます。これは「便利さの行き着く所」の一つの形なのかも知れません。

そして気がついたら帰国の準備時期になっていたというところまでです。1年間とは言っても決して十分な時間ではありません。研究の新たな課題が現れ、その方法を模索し、その取りかかりと方向性が見えてやっとなところ。帰国してこれからは、それを展開していかなければなりません。



この4月から中央学院大学商学部に着任しました松原和樹です。我孫子市と同じくらい長閑な広島県東広島市から引越してきました。大学で働くのは初めてなので、大学教員としてはまだ若苗といえるところ。専門分野は数学(組合せ論)です。

私は高校卒業後、小学校教員を目指し大学に入学、高校の教員を志し大学院博士課程前期に入学、高校の教員となり8年目に研究者を夢見て大学院博士課程後期に入学、この3月に10年間勤めた広島県の高校を退職し現在に至っています。結局私は何がしたいのでしょうか。未だに自問自答しています。ただし、1つ自信を持って言えることは「学校」が好きだということです。これまで園児、児童、生徒、学生、教員という立場で学校に関わって来ていますが、ずっと変わらず学校という空間にいるこ

とが大好きです。

私自身、「学校」で多くの友人・先生方と出会いました。そして、その友人や先生方の支えがあったからこそ色々なチャレンジができ、それらの経験(特に数学に関わる経験)が今の自分の自信に繋がっています。だからこそ自分も教員という立場で、数学を通して多くの学生のチャレンジをサポートしたいと思っています。

中央学院大学は文系の人が多いため、数学という悪いイメージを持っている人も多いかもしれません。数学に苦しめられた人も多いでしょう。数学を好きな人はもっと好きに、好きでない人はちょっとでも好きになれるよう、私自身が中央学院大学という場でチャレンジしていきたいと思っております。まだまだ私の人生もこれから勝負です。学生の皆さんの若いチャレンジ精神に負けなかつもりです。一緒にどんどんチャレンジしましょう! そして、大学でできないことに時間を費やすような学生生活を送ってください!

英単語のjobは単に仕事という意味ですが、英会話でGood job!と言うと、「良くやった」といった意味になります。商学部で2015年から始まったBJP(ベスト・ジョブ・プログラム)もまた、就職だけを目的とするではありません。学生生活でのGood

jobを積み上げることで自分自身を深く理解し、どういう仕事に向いているのか、社会に出るとはどういうことなのかなどを3年間かけて考えてもらうことを目的としています。では具体的にこのプログラムを紹介することにします。

科目名	内容
1年次春semesterでの「プロゼミナール」(7月～)	全員を対象に3回の【BJPガイダンス】を行います。

11月末から始まる「プレBJP」へは、参加希望を出した学生の中から100名を選抜します。選抜は7月末に行われ、「プロゼミへの参加態度」「行動計画書」などが採点対象となります。

1年次秋semesterでの「プロゼミナール」(11月～)での「プレBJP」(定員100名)	プレBJPとして6回の授業でディスカッション力を高め、将来や仕事について考えます。また自分自身の成長度合いや課題などについても考え、今後の行動計画をたてプレゼンテーションを行います。資格取得についての考えも進めます。(BLP:ビジネス・ライセンス・プログラムと呼んでいます。)
--	--

「キャリアデザインⅡ」へは、2年次の「キャリアデザインⅠ」での参加態度やプレゼンテーション力、課題提出などを採点し、さらに意識の高い学生を選抜します。

3年次春semester「キャリアデザインⅡ」(定員50名)	インターンシップについて調べ、実際に参加できる準備を行います。仕事の基本や企業でのマナーなどを学びつつ、インターンシップの応募先を探します。筆記試験対策で学力を高めるだけでなく、自己PRを考え、面接対策なども行います。
--------------------------------	---

## 企業でのインターンシップ

3年次秋semester「キャリアデザインⅢ」(定員50名)	インターンシップを振り返り、自己分析を行います。また業界・業種・企業・職種を研究し、企業説明会やOB・OG訪問の活用についてなどを学びます。春semester同様、学力を高めるための試験対策も行います。本格的な就職活動に向けて、学外に出て自分で活動できる自信をつけましょう。
--------------------------------	---



「ベスト・ジョブ」という言葉は、将来皆さんに生き生きと仕事をしてほしいという思いから生まれました。仕事とは大学を卒業し社会に出てから行うものだけではなく、例えば大学内の学生団体、サークル・クラブ、各種学生スタッフ、学外ではボランティアなど、大学生活の中でも経験することができます。大学生活を積極的に過ごし充実させることで、結果として就職がついてくるのではないのでしょうか。皆さんがこのプログラムや大学生活を通して、成長されることを期待します。

講義は、教員が多くの学生に向けて行いますが、ゼミナールは少人数の授業です。受け身ではなく学生が主体となって授業を進めます。学生同士でディスカッションをしながら興味のある分野をより深く追究します。合宿や懇親会などで、学年を超えた仲間との交流が生まれます。

## 主体的に研究に取り組み、仲間とともに学びを深める4年間

学年	内容
1年次	レポートの書き方や図書館での資料の探し方、発表の方法など、大学の授業を受けるうえでの基礎を身につけます。
2年次	自分の研究テーマについて研究し、発表する方法を学びます。問題を発見し、解決する力も身につきます。
3年次	専門分野についてさらに深く掘り下げて研究を進めます。夏休みや冬休みに合宿を行うゼミナールもあります。
4年次	指導教員のアドバイスのもと、自分の研究テーマについて卒業論文にまとめます。

### 2015 商学部ゼミテーマ

- 財務会計論の基礎
- 国際ビジネスの理解に不可欠な、経済・経営システム（基礎）を学ぶ
- ゼミ生が国際経済問題や国際経営問題を論理的に分析できる能力を養う
- 経済学の研究と経済分析
- 会計や経営を通して現代の問題を探求する
- 経営と経営学の基礎
- 国際マーケティング：企業のグローバル戦略やマーケティングに関する研究
- 会計情報(会計数値)の経済活動、経営・運営への活用
- 税務会計・税法
- 企業の仕組みと経営学の基礎
- 日本企業の経営と経営財務分析
- 流通業の経営実態とメーカーの流通戦略
- 経済学を使って身近な問題を考える
- 会社法の研究
- 厚生の極大化
- 日本と中国・アジアの経済社会の関係と特徴
- ネットワークコミュニケーション
- EUC(エンド・ユーザ・コンピューティング)
- フィジカルコンピューティング
- 経営情報処理
- SF映画から哲学の基礎を学ぶ
- レトリック(言語表現技術)研究
- 現代日中文化事情・商業事情
- オーストラリア事情
- 日本語運用能力の向上

詳しくはCGUゼミナールを検索

## 2015 商学部 ゼミナールフォトレポート



このゼミでは、「経済学」、とりわけ日本を中心に資本主義経済の修得を目指しております。私たちの生活している日本の経済が資本主義制に基づいて動いているからです。

ゼミ学生は、日常の「衣食住」のなかで健康な生活を送る一方、他方でスポーツに関わり、とりわけ「食べること」の大切さを自覚し体調を整えている様です。人間の社会生活には、一方に精神的側面と、他方に物的側面とがあり、ここでいう「食べること」

は、重要な経済活動「物的側面」なのです。ゼミ学生は、良く食べ(経済活動)、良く動き(各種スポーツ実践)、充実した社会生活を送り、同時に将来の社会生活に向けて心身を鍛え励んでおります。

近い将来、「食」生活をとおして食の安全(安心)探求、ひいてはこの経済活動が資本主義の直接には見えない「錯綜した経済」を解きほぐす「力」(＝「経済学」)を、合わせ持たれることを切望しております。



わたしは経営学を教えており、「経営と経営学の基礎」というテーマの演習を担当しています。わたしはゼミ生に、経営学の基礎知識だけでなく、多様な社会的能力を身に付けてもらいたいと考えています。こうした考えから、わたしの演習では昨年度から、仮想上の会社を設立し「あびこ祭」(文化祭)に出店することにより、より実践的な経営学の勉強をすることにしました。

演習はテキストで、経営理念、経営戦略、経営組織、モチベーションとリーダーシップなど経営学の基礎的知識を学んだ後、それらの知識を使って、社長(ゼミ長)が議長になり会社の設立と運営のために必要な事項を決めるという形で進められました。ゼミ員たちは、パンケーキの製造販売を事業内容とする「(株)ホットパン子さん」という会社を設立することを決めました。また、「商いを通じてお客様に、広くは社会に、本当に喜んでいただける商品と、元気で明るい真心のサービスを提供する」などの経営理念や、商品をLとMの2種類にし、Lを1カップ以上買った上得意客には特別サービスを提供するというマーケティング戦略なども

決めました。

こうしてあびこ祭当日を迎えましたが、ゼミ員たちは試行錯誤の連続の2日間を過ごしたようです。そのうちの1つ2つをあげますと、大学支給のプレートではパンケーキがうまく焼けないため、急遽あるゼミ員の自宅のプレートに代えたり、事前の予想以上にお客様が買いに来たため、商品が間に合わずお客様を待たせたり材料がなくなり買い出しに行ったりといったことがありました。しかし、こうした問題が発生したにもかかわらず、ゼミ員たちは、忍耐強く、また協力し合いながら購買、製造、販売、広報などの仕事をやり遂げました(なお、残念ながら、わが社は人気ランキング3位入賞はかなわず4位という結果でした)。昨年度の3年生が元気に会社訪問をしているところを見ると、この経験を通して、彼らは少し遅くなったようです。この号が出る頃には、今年度の事業内容や社名も決まり準備作業が本格化していると思います。

